

# 緑の風

JR東労組  
NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2024年2月21日 No.71

## 山手貨物線 触車死亡事故 から25年

2月21日、5名のパートナー社員の方々が犠牲となった山手貨物線触車死亡事故から25年を迎えました。

当時、JR東労組はこの事故を契機に会社と議論し、線路内での作業は線路閉鎖を基本とする「原則線閉」の体制を確立しました。

線路閉鎖での作業は、作業効率の面では非効率なため、当時は多くの組合員から不満の声が上がりました。しかしJR東労組は「作業優先から安全優先を」を掲げ、命を守るための議論を何度も重ねながら、「原則線閉」の考え方を定着させてきました。

いま、新幹線の停電事故復旧時に感電・火傷の二次災害が発生するなど、“これでは安全に作業できない”との声が多く職場から寄せられています。また、あわや触車という事象も発生しています。

安全を確保するには手間と時間がかかりますが、「命」を失ったら取り返しがつきません。自らの中にある運行優先体質を律しつつ、勇気をもって「危ないと思ったら列車や作業を止める」ことを実践しましょう！



工務部会にて建立した「安全への挑戦を誓う碑」  
(目黒さつきビル前)

### 【山手貨物線触車死亡事故】

1999年2月21日(日)0時14分、山手貨物線・大崎～恵比寿間において、インピーダンスボンド導線の取替作業を行うため工事指揮者他9名が線路内へ立ち入り、手押し車で資材運搬を行っていたところ、進行してきた臨時列車と触車し5名が死亡した。

**安全なくして労働なし！**  
**自らと仲間の命を守るため、**  
**些細なことでも声を上げよう！**